

時評

佐藤洋一郎 総合地球環境学研究所副所長・教授

東南アジアの国、タイの洪水被害が伝えられている。新聞報道などによる死者は300人以上達したというから、その被害は今年の台風12号による日本国内の被害よりも大きいことになる。

現地の報道では、原因は大雨とされているようだが、チャオプラヤ川の支流に作られたダム



タイの洪水被害

の放水のタイミングなども問題だとタイの知人は言っている。もう一つ気がかりなのは、バンコクの北にあるアユタヤ周辺の急速な開発だ。かつてこの地は雨季の終わり頃には土地全体が数倍にも達する水で覆われる浮稻地帯だった。日本の総水田面積に匹敵するおおきさの巨大な自然の水たまりができる調節

池の役割を果たしていた。ところが1980年代の後半以降変化が起きる。道路沿いの土地が次々埋め立てられ、工場やオフィスが立ち並ぶようになつた。交通渋滞の解消のため道路が整備、拡幅されていった。便利になった土地にはさらに工場やオフィスが建てられた。私がここで調査を始めた80年代はじめころ一面の浮稻地帯だった

生活スタイル変化に一因

バンコクとアユタヤ間の幹線道路沿いの土地は、今や大工業地帯に姿を変えた。そこでは浮稻の田にすることはもはやない。

浮稻の田の減少のスピードは、タイ国王が懸念するほどに急激だったといわれる。私も、土の感覚ながら、あれだけの土地を急速に埋め立てて大丈夫

かとすうと黙ってきた。巨大水溜りの面積は狭まる、しかも地下に埋め立てられ、工場やオフィスが立ち並ぶようになつた。交通渋滞の解消のため道路が整備、拡幅されていった。便利になった土地にはさらに工場やオフィスが建てられた。私がここで調査を始めた80年代はじめころ一面の浮稻地帯だった

のが道理ではないか。ところでタイの洪水は鉄砲水型の日本のそれとは大きく違う。水は、雨季の後半を中心に数カ月にわたってたまり続けている。人びとの暮らしは洪水と

執筆者略歴

◇さとう・よういちろう氏 京都大学大学院農学研究科修士課程修了。静岡大助教授を経て2008年10月から現職。植物遺伝学専攻。著書に「稲の日本史」(角川書店)、「コシヒカリより美味しい米」(朝日新書)など。